

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900468		
法人名	大倉商事有限会社		
事業所名	グループホーム愛老 2		
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉3102		
自己評価作成日	平成 29 年 8月15 日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム愛老は自然豊かで静かな環境の中に木造平屋建てのホームです。庭も広く日本ていえんが広がり、裏庭には藤棚、畑もありホームに居ながら紅葉も楽しみ取れたての野菜をたべたり、季節感を味わえます。日中は玄関の施錠も行わず、門も無い為、地域の方、家族の方、自由に出入りが出来て解放感のあるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (あゆみ)

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につくところに理念を貼ることで「笑顔あふれる生活空間」その人らしさ、生きる喜び出来る喜び、一日一笑を大切にしている職員間で共有できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して15年目。地域とも自然な交流が出来ている。近隣からの入居もあり面会もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の話【種類・症状】ご飯が食べられない方の対応方法等の質問があり、私たちの持つ知識、経験を伝える事で地域の方の認知症に対する理解を深めてもらえると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的開催が出来ている。会議ではホームに入居している方の生活の様子、状態、ホームでの行事、職員の仕事内容を知っていただく事で、いろいろな質問、家族からの感謝の言葉、意見を聞く事でサービスの向上に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事、相談事がある時には、その都度電話、直接訪問して聞いている。生活保護の方の対応、入居の相談などにおいては介護保険課だけでなく、関わりを持つ部署も増えて、関係性が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、又その弊害についても理解し認識した上で対応している。夜間は防犯の為に施錠は行っているが、日中は玄関、窓の施錠は行わず、自由に入出入りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が虐待について理解し業務の中でのグレーゾーンである言動をお互いに注意するようにしている。虐待は人として最低な行為であると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で対象となる方は居ないが、今後の為に勉強の必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、本人、家族に十分説明した上で契約している。料金改正があった時はその都度お手紙等で報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等から意見、要望があった時は、申し送り、職員会議等で全職員の周知解決、対応している。外部の窓口を重要事項説明書に記載し、介護相談員の派遣も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に入ることが多いので、直接現場を知り、職員より意見を聞く機会も多い。大事な決定事項(入居など)は職員会議の場で意見を聞く事が多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況(勤務態度、仕事に対する思い、努力)などを把握して給料水準に反映してくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握している。経験年数に応じて技術の差は生じているが、経験者が経験の浅い職員に伝達したり職員同士の意見交換等でお互いがスキルアップ出来る様にしている。基本的な認知症の理解も深めていきたいと考える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改めて事業所同士の交流の場は設けていないが、職員個々に同業者との交流は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることへの不安な気持ちをくみ取り、利用するにあたり要望をきちんと聞く様にする事が大切。又既往歴、生活歴、性格、日課等の情報収集をしっかり行う事で入居後も安心した生活が出来るように支援していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望があった時は、可能な限り家族、本人にホームへ見学に来てもらい、家族、本人の困り事、要望を直接話して確認した上で、ホームで対応可能な有無を明確にすることで家族、本人が納得して安心して利用でき様に支援する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望時にそれまでの生活歴既往歴を知り今何が必要なのかを見極め入居後の生活を想定して、本人家族にとってのベストを考える。職員間の意見も参照にして他のサービスへの意向も含めて検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場にたって考え、言葉使いに注意しながら、コミュニケーションをとる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の関係性を理解した上で面会、電話等で状態報告したり本人の思いを伝達したりして家族と本人の関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達などの面会等は、自由に行え居室でお茶を飲みながらゆっくりしてもらっている。面会に来やすい環境づくりにも配慮している。面会が少ない方も他の利用者家族と話したり、馴染みの関係作りが出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、性格を把握して良好な関係作りが出来る様に支援している。トラブルにならない様に見守り職員が上手く介入する事もある。ユニット間の行き来も自由になっている。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後何人かの方が施設を移動したがその際にはホームでの生活の様子などを書面、口頭などでお知らせしている。逝去によって退去された方については年賀状のやりとりを継続している方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態に応じて本人本位の希望を把握して支援出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生活歴、既往歴、家族構成、入居に至るまでの経過等の情報収集は入居後のより良い生活を支援するために必要と考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で様子観察や声掛け等により、状態変化を見逃さない様にしている。出来る事出来ない事の把握を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活の中で本人の意向や思いを聞いた上で家族の要望を聞きながら職員間で話し合い介護計画に反映出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の変化、いつもと変わった言動については詳しく記録に残すようにしている。対応の方法も含め記録し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望を聞きながら、ホームで対応可能な事に関して柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ(昔遊び、ほーモニカ、太鼓、保育所遊戯)等行う事で、少しでも楽しいホーム生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に家族と話し合い、かかりつけ医の継続をするか、否かを確認している。入居後の状態変化によりかかりつけ医以外の受診が必要な場合においてはその都度家族に確認報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、体調管理に注意して状態変化を見逃さない様に努めている。状態変化があった場合はかかりつけ医に相談、報告し対応していただき適切な看護、医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ず付き添い、情報提供している。入院中も定期的に面会し入院後の経過観察する様にしている。退院に備えての病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化が生じた場合には、家族と話し合い、家族、本人の意向を確認した上で協力医に相談をしてホームで対応出来る事、出来ない事を明確にして、職員間でも話し合い方向性を決めていく。双方のずれが無い様に段階的に家族、協力医と話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変についてはマニュアルに沿って対応している。夜間についてはあかりの夜勤者の協力、管理者に相談している。状態変化を見逃さない為に、日頃の状態観察に努めている。職員の安心の為に訓練の必要性を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っているが自分で動けない方、認知症が重い方もいるので、職員だけの避難誘導は困難と考えている。会議等で地域の方に呼びかけ、入居者の方の理解を求めている。災害に備えて食糧、水、毛布等確保している。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、性格等を把握して、人格を尊重して声かけの口調、トーン、声の大きさ、言葉使いに注意し不快な思いをさせない様に努めている。一人部屋の為プライバシーは確保されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、何がしたいのか求めているものをくみ取る様にしている。自分の思いを言える環境作りに努めている。職員間でも情報を共有することで希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助を要する方が多く、一人一人のペースに合わせて支援する事が難しい事もあるが、出来るだけ希望に添える様に考えながらケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時に身だしなみ、整容している。衣類が汚れたら、その都度交換している。衣類も本人の好みを考えながら用意している。身だしなみ、おしゃれなをする気持ちを大切にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で食べられる方の方が少ないが出来るだけ自分で食べられる支援を行っている。咀嚼に問題があり食べづらい方には食事形態を変えたり、とろみをつけたり、美味しく食事がとれる様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を把握して月に1回の体重測定を行い増減を確認している。お茶を好まない方には、昆布茶、紅茶、スポーツドリンクなどで水分量の確保が出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣的に行い清潔が保たれている。歯磨きが苦手、うがいが出来ない方にはイソジンガーゼを利用している。時間にとらわれず機嫌が良い時に対応する方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知り、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。失敗してしまう事も多いが、根気強く行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体機能の低下もあり、便秘症の方が多い、バランスの良い食事、十分な水分量の確保をこころ掛けています。それでも便秘症の方にはお薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番を気にする方がいるので、公平に順番で入ってもらうようにしている。入浴は一人ずつでプライバシー、羞恥心には配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢な方も多く、体力的に横になって過ごす方も多い。夜間の睡眠パターンを把握し安眠出来るように支援している。自分で寝返りの出来ない方には安楽な姿勢での体交を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容、効能、副作用について把握する様にしている。処方箋についてはファイリングして職員で共有している。誤薬、飲み忘れが無い様に薬には、名前、日付、を明記して職員の2度確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアのモップがけ、洗濯たたみしてくれる方もいる。出来る事の楽しみを感じてもらえるように支援している。トラブルにならない様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿って外出する事は難しいが、天気の良い日などは、散歩、ドライブに外出している。		

自己	外部	項目	自己評価(あゆみ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は数人の方が管理していたが、なくなってしまったり、他者にあげてしまいトラブルになってしまう事があり基本的にお金の管理の支援は行えていない。訴えがあった時にホームの自動販売機でジュースを買う程度。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望を聞き家族の負担にならないように、家族や友人に電話出来る支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃に心がけ、清潔な環境、明るさ、臭い、空調、音等に配慮して居心地の良い生活空間となる様に支援している。居室を間違えない様にドアに名前を貼っている方もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで座る席、ソファで座る席が自然に決まっており、それぞれが自由に過ごしている。一人を好む方もいるので、危険の無い様に見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品などを出来るだけ持ち込んでいただき、本人が生活しやすい環境を大切にしている。本人の生活動線を大切にしながら、転倒などの安全面にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力、理解力に応じて、混乱しない様、トラブルにならない様に安全な環境作りに配慮している。		